

機 械

1. 評価対象企業（19 社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、I H I

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	5	34
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 19 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 当業種は、2025 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2024 年度（以下「前回」という。）のものである。

本年度は、評価項目分野のうち、説明会等、フェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連を中心に項目数・内容、配点を見直した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.6 点（前回 70.2 点）、総合評価点の標準偏差は 6.9 点（前回 10.1 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 75%（前回 70%）、説明会等が 77%（前回 76%）、フェア・ディスクロージャーが 78%（前回 81%）、ESG 関連が 69%（前回 66%）、自主的情報開示が 73%（前回 67%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 14 項目中、次のフェア・ディスクロージャーの中の「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」の平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

- ・ 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）」（平均得点率 82%〔前回同率〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 13 社・90%台 2 社）

- ④ **ESG 関連**の5項目については、次のとおりとなった。なお、前回最も低い平均得点率であった(a)は、前回に比べ平均得点率が大きく改善したが、企業間の格差は依然として大きく、低水準の企業には改善努力を求めたい。

- (a) 「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 66% [前回 29%]) (得点率：40%台 3 社・50%台 5 社・60%台 4 社・70%台 2 社・80%台 3 社・90%台 2 社)
- (b) 「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 77% [前回 74%]) (得点率：70%台 14 社・80%台 5 社)
- (c) 「社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 68% [前回 72%]) (得点率：50%台 2 社・60%台 10 社・70%台 6 社・80%台 1 社)
- (d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」(平均得点率 76% [前回 74%]) (得点率：60%台 2 社・70%台 13 社・80%台 4 社)
- (e) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていますか」(平均得点率 66% [前回 69%]) (得点率：30%台 1 社・50%台 3 社・60%台 10 社・70%台 5 社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 小松製作所（ディスクロージャー優良企業 [14 回目]、

総合評価点 84.1 点 [前回比+0.7 点]、前回第2位]

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（得点率〈以下省略〉87%）、ESG 関連（83%）、自主的情報開示（94%）が第1位、経営陣の IR 姿勢等が第3位（82%）、説明会等が同得点第4位（82%）となった。前回に比べて、自主的情報開示の得点率が大幅に改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第2位となった。これに関連して、経営トップの企業価値向上に対する意識は高く、その実現に向けた経営方針を一貫して発信しているほか、資本コストを意識した経営や中期経営計画の進捗説明、財務戦略に関する情報発信が行われている点を評価する声が寄せられた。また、社長による四半期ごとの説明機会の提供や投資家ミーティングへの参加など、経営陣が積極的に IR 活動に関与している姿勢や開示内容の充実、投資家との対話に前向きに取り組む姿勢を評価する声があった。「IR 部門の機能」は同得点第3位となった。これに関連して、IR 部門には十分かつ正確な情報が集積されており、担当者へのアクセスのしやすさに加え、事業別・地域別・需要別の動向について有意義かつ深度のあるディスカッションが可能である点を評価する声が寄せられた。また、ESG 関連部門との連携を含めた高い対応力を評価する声があった。このほか、社長スモールミーティングや工場見学会などの積極的な IR 活動を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」が第2位となった。これに関連して、決算説明会資料は、地域別建機需要や稼働時間、コンポーネント別動向、売上高・営業利益の増減要因分析、関税関連情報など、投資判断に必要な定量情報が網羅的かつ詳細に開示されており、事業環境に関する説明も充実している点を評価する声が寄せられた。また、必要な情報が適切に盛り込まれていることに加え、投資家のニーズを踏まえた情報の追加など、説明資料の完成度の高さを評価する声があった。また、「説明会における開示」（2項目計）が第5位に、「インタビュー等における開示」が同得点第6位となった。これらに関連して、決算説明会やスモールミーティング、取材対応などを通じた開示の質は総じて高く、需要見通しや為替感応度に関する説明が丁寧で分かりやすいことに加え、投資家との対話に真摯に取り組む開示姿勢を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」が最も高い評価となったほか、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も第2位となり、共に高い評価となった。これらに関連して、説明会資料や質疑応答の内容について、日本語・英語の双方でタイムリーかつ充実した開示が行われているほか、Q&A スクリプトの内容も詳細で分かりやすく、フェア・ディスクロージャーへの配慮が十分になされている点を評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、全5項目のうち4項目（資本政策等を除く）で最も高い評価（同得点第1位を含む）と

なった。これらに関連して、ESG に関する情報開示については、CO2 排出削減や電動化、人的資本への取り組みと企業価値向上との関連性が分かりやすく整理されている点を評価する声が寄せられた。「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていること」は第 2 位となった。これに関連して、資本政策や株主還元方針に関する説明が充実しており、ESG 情報開示全般の水準の高さを評価する声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は最も高い評価となった。これに関連して、事業説明会や技術説明会、工場見学会が継続的に開催されており、内容も充実しているほか、事業理解を深める有意義な機会の提供を評価する声が寄せられた。また、工場見学会を通じて生産体制や競争優位性への理解が深まった点を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 荏原製作所（総合評価点 82.5 点〔前回比－3.2 点〕、前回第 1 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 1 位（83%）、説明会等（84%）、ESG 関連（81%）が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（83%）、自主的情報開示が同得点第 3 位（84%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップ自らが IR 活動や投資家ミーティングに積極的に参加し、企業価値向上に対する高い意識のもと、成長、収益性、資本効率、ESG など幅広い観点からの経営施策や財務戦略について分かりやすく発信している点を評価する声が寄せられた。また、長期ビジョンに基づく経営方針の説明や資本効率を意識した経営への取り組み、決算説明会における明確で分かりやすいトップメッセージに加え、自社の課題についても適切に説明する姿勢を評価する声があった。「IR 部門の機能」は同得点第 7 位となった。これに関連して、IR 部門は担当者へのアクセスが容易で、質問への対応が丁寧かつ有益なディスカッションが可能であるほか、半導体やカーボンニュートラル関連を含む事業情報の集積が進んでいる点を評価する声が寄せられた。また、社長スモールミーティングや ESG 説明会などの積極的な IR 活動に加え、誠実な対応姿勢を評価する声があった。なお、事業ごとの定量情報や戦略に関する開示、SPE（半導体製造装置）に関する情報開示のさらなる充実を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が最も高い評価となった。これに関連して、決算説明会資料では、セグメント別の受注動向や採算状況に加え、営業利益の増減要因分析が詳細に整理されており、事業環境に関する説明も充実していることから、企業分析に有用な情報が網羅されている点を評価する声が寄せられた。また、投資家に必要な情報が継続的に追加されるなど、説明資料の分かりやすさや充実した情報開示を評価する声があった。「説明会における開示」（2 項目計）は同得点第 3 位、「インタビュー等における開示」は同得点第 6 位となった。これらに関連して、説明会やインタビューにおける対応は総じて良好であり、開示内容についても投資家との対話に前向きに取り組む姿勢を評価する声が寄せられた。なお、需要動向に関する地域別・用途別の内訳情報の充実や、定量的な情報の開示が難しい場合における現地の事業環境や市場動向に関する定性的な説明の充実、セグメント別の利益予想増減分析の開示を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となったほか、「ウェブサイトにおける情報提供」は第 12 位となった。これらに関連して、日本語・英語の双方でタイムリーな情報提供が行われている点を評価する声があった。また、Q&A スクリプトについても日英ともに充実した内容となっており、投資家への情報提供の充実度を評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていること」が最も高い評価となったほか、「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」も同得点 1 位となった。これらに関連して、ESG、人的資本、ガバナンスに関する情報開示の充実に加え、ESG や IR Day を通じた企業価値向上への取り組みや、自己資本水準を意識した資本政策、株主還元方針を詳細に開示している点を評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第 3 位となった。これに関連し、技術説明会や事業説明会を継続的に開催していることに加え、社長とのスモールミーティングなど投資家との対話機会を積極的に設けてい

る点を評価する声が寄せられた。

第3位 ダイキン工業（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 80.2 点〔前回比+0.4 点〕、前回第3位〔前々回第3位〕〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が同得点第1位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第2位（85%）、ESG 関連が第4位（76%）、説明会等が同得点第4位（82%）、自主的情報開示が同得点第7位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門は担当者へのアクセスが容易で、有意義なディスカッションが可能であるほか、対応の質・スピードともに高水準で、地域別需要や原材料価格、為替感応度に関する深い議論ができる点を評価する声が寄せられた。また、社長スモールミーティングや海外拠点訪問のアレンジなど、積極的な IR 活動と総じて高い IR のクオリティを評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は同得点第4位となった。これに関連して、経営トップが長期成長戦略を一貫して発信し、グローバル展開や事業の独自性を軸とした成長戦略について分かりやすく説明しているほか、成長性に加えて資本効率や収益性の向上を重視した経営への転換を進めている点を評価する声が寄せられた。また、中期経営計画公表後の社長スモールミーティングをはじめ、経営トップの IR 活動への積極的な関与や、企業価値向上に向けた強い問題意識と取り組み姿勢を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」（2項目計）および「インタビュー等における開示」が同得点第3位となった。これに関連して、決算説明会や取材対応における開示内容は総じて充実しており、厳しい事業環境下での需要見通しや価格戦略についても丁寧かつ説得力のある説明が行われている点を評価する声が寄せられた。また、地域別の事業環境に関する質問に対して詳細な説明がなされることに加え、IR 部門に社内情報が集約されており、取材時の回答が分かりやすい点を評価する声があった。「説明資料等における開示」は第7位であった。これに関連して、決算説明会資料では、セグメント別の利益増減分析に加え、地域別・製品別の需要動向や収益構造が分かりやすく整理されており、必要な情報が網羅された完成度の高い資料であることや、明快な戦略開示を評価する声が寄せられた。また、事業環境に関する説明が充実しており、説明資料が必要十分かつ分かりやすい点を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」が第2位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第3位となった。これらに関連して、説明会資料や質疑応答の内容について、日本語・英語の双方でタイムリーな情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。また、Q&A スクリプトが日英ともに充実しており、投資家に対する公平かつ十分な情報開示への取り組みを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が同得点第2位となったほか、「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が第3位となった。これらに関連して、統合報告書やサステナビリティレポートにおいて、気候変動や人的資本に関する開示を拡充しているほか、省エネや冷媒関連の環境対応と企業価値向上との関連性を分かりやすく示している点を評価する声が寄せられた。また、サステナビリティ説明会を継続的に開催し、企業価値向上に向けた取り組みや資本政策について充実した説明を行っている点を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（同得点第7位）は、前回に比べ得点率が大幅に改善した。これに関連して、技術説明会や事業説明会を継続的に実施し、その内容も充実しているほか、化学事業に関するサステナビリティ説明会など、事業理解や企業価値向上への取り組みに関する情報提供を評価する声が寄せられた。

同社は、3 回連続して第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ ダイフク（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 76.8 点〔前回比+7.7 点、前々回比+8.5 点〕、第5位〔前回第11位、前々回第14位〕〕

- ① 同社は、説明会等が第1位（85%）、経営陣のIR姿勢等（80%）、ESG関連（72%）が同得点第5位、自主的情報開示が第11位（75%）、フェア・ディスクロージャーが第16位（72%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」が第3位となった。これに関連して、売上成長や収益性向上、資本効率、ESG、IRなど多面的な視点から企業価値向上に向けた施策を示しているほか、中期経営計画に基づく成長戦略や財務戦略について分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。また、経営トップが株式市場に対して明確なメッセージを発信するとともに、自ら投資家ミーティングに参加するなど、資本効率や企業価値向上への意識の高まりとIR活動への積極的な関与を評価する声があった。また、「IR部門の機能」は第6位となった。これに関連して、IR部門は誠実な対応を通じて担当者との有意義なディスカッションが可能であり、受注動向や需要動向に関する情報が十分に集積されているほか、半導体やEC物流など分野別の深い議論ができる点を評価する声が寄せられた。また、担当者へのアクセスのしやすさに加え、取材時の説明が分かりやすく、近年は定量情報の開示も充実している点を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」（2項目計）が最も高い評価となったほか、「インタビュー等における開示」は同得点第3位となった。これらに関連して、説明会や取材対応は総じて良好であり、IR担当者に社内情報が集約されていることから、取材時に分かりやすく的確な説明が行われている点を評価する声が寄せられた。「説明資料等における開示」は同得点第7位であった。これに関連して、決算説明会資料では、セグメント別・地域別の受注や売上、事業別の受注残や採算、分野別の実績・計画数値などが整理されており、分析に有用な情報が充実している点を評価する声が寄せられた。また、利益率をはじめとする開示情報の充実や、必要十分な情報を分かりやすくまとめた説明資料である点を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第11位、「ウェブサイトにおける情報提供」は第17位となった。これらに関して、日本語・英語の双方でタイムリーな情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。なお、Webサイト上での情報開示についてさらなる充実を望む声があった。
- ⑤ ESG関連においては、「ESG関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」（第6位）の得点率が前回に比べ著しく改善した。「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていること」が第5位、「社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が第6位となった。これらに関連して、ESG、ガバナンス、人的資本に関する情報開示を着実に拡充しているほか、ESGやIR Dayを通じた企業価値向上への取り組みや、ROEを意識した資本政策を評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は第11位となった。これに関して、事業説明会や技術説明会など、自主的な情報開示を継続的に実施している点を評価する声が寄せられた。また、工場見学会の開催を通じて事業理解を深める機会を提供しており、滋賀工場見学会が有益であった点を評価する声があった。なお、会社主催による事業見学会のさらなる開催を望む声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2026年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (機械)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点26点)		評価項目4 (配点20点)		評価項目2 (配点10点)		評価項目5 (配点34点)		評価項目1 (配点10点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6301 小松製作所	84.1	21.4	3	16.4	4	8.7	1	28.2	1	9.4	1	2
2	6361 荏原製作所	82.5	21.5	1	16.7	2	8.3	3	27.6	2	8.4	3	1
3	6367 ダイキン工業	80.2	21.5	1	16.4	4	8.5	2	25.9	4	7.9	7	3
4	6370 栗田工業	79.3	20.9	4	16.3	6	7.8	10	26.7	3	7.6	10	7
5	6383 ダイフク	76.8	20.7	5	16.9	1	7.2	16	24.5	5	7.5	11	11
6	6506 安川電機	76.7	19.8	11	16.5	3	7.8	10	24.5	5	8.1	5	4
7	6305 日立建機	76.3	20.4	7	15.3	11	8.2	5	24.0	7	8.4	3	6
8	7011 三菱重工業	76.2	20.0	10	15.6	8	8.1	7	23.8	9	8.7	2	8
8	7012 川崎重工業	76.2	20.7	5	15.5	9	8.0	8	24.0	7	8.0	6	5
10	6326 クボタ	74.2	20.3	8	15.5	9	7.7	13	23.3	10	7.4	12	10
11	7013 IHI	73.8	20.2	9	16.0	7	7.3	15	22.4	14	7.9	7	12
12	6268 ナブテスコ	69.6	18.0	16	14.1	15	8.2	5	23.1	11	6.2	13	15
13	6302 住友重機械工業	69.5	19.1	14	13.6	18	8.0	8	20.9	16	7.9	7	14
14	6586 マキタ	68.7	19.4	13	15.1	13	6.8	19	22.0	15	5.4	16	17
15	6481 THK	68.2	19.1	14	14.2	14	7.1	17	23.0	12	4.8	18	18
16	6113 アマダ	68.0	19.5	12	15.2	12	7.4	14	20.8	17	5.1	17	9
17	6471 日本精工	67.5	16.9	17	13.7	17	8.3	3	22.6	13	6.0	14	13
18	6273 SMC	60.0	15.8	18	13.8	16	7.8	10	17.9	19	4.7	19	16
19	6954 ファナック	58.8	13.7	19	11.8	19	7.0	18	20.4	18	5.9	15	19
	評価対象企業評価平均点	73.58	19.56		15.31		7.81		23.62		7.28		

2026年度評価項目および配点（機械）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、アクセスも容易で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、他部門（ESG関連部門など）と連携をとっていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13
2. 説明会、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅され、ポイントが簡潔にまとめられていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	5
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（34点）	配点
①ESG関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
②環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	5
③社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8
④コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等。	5
⑤資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていますか。	11
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	10

機械専門部会委員

部 会 長	田 井 宏 介	大和証券
部会長代理	下 森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
	澤 田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント
	清 水 俊宏	アセットマネジメント One
	前 川 健太郎	野村證券
	宮 崎 孝志	三井住友トラスト・アセットマネジメント

評価実施アナリスト（19 名）

石 田 重和	丸三証券	田 村 真一	極東証券経済研究所
井 上 昂洋	シティグループ証券	長 井 惇朗	東京海上アセットマネジメント
大 平 光行	東海東京インテリジェンス・ラボ	野 口 昌泰	SBI 証券
児 玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	終 宏二	QUICK
澤 田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント	前 川 健太郎	野村證券
下 森 浩	三菱 UFJ 信託銀行	グレイム マクドナルド	シティグループ証券
清 水 俊宏	アセットマネジメント One	南 純一	りそなアセットマネジメント
田 井 宏介	大和証券	宮 崎 孝志	三井住友トラスト・アセットマネジメント
谷 中 聡	SMBC 日興証券	渡 辺 洋一郎	水戸証券
谷 林 正行	QUICK		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。